2020年10月15日

各　　位

会社名　　株式会社ヘッドウォーターズ
代表者名　　代表取締役　　篠田　庸介
（コード番号：4011　東証マザーズ）
問合せ先　　取締役 管理本部長　原島　一隆
（TEL 03-5363-9361）

〈マザーズ〉投資に関する説明開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○開催状況

開催日時	2020年10月15日　13:00～14:00
開催方法	対面による実開催
開催場所	東京都中央区日本橋１丁目17番10 株式会社日本投資環境研究所９階ホール
説明会資料名	上場後会社説明会

【添付資料】

１．上場後会社説明会において使用した資料

以上



上場後会社説明会

株式会社ヘッドウォーターズ

証券コード：4011

会社概要（2020年9月末現在）

商　　号	株式会社ヘッドウォーターズ
設　　立	2005年11月
代 表 者	代表取締役　篠田　庸介
本社所在地	東京都新宿区新宿二丁目16番６号
資 本 金	354,266千円
従業員数	72名

「エンジニアからビジネスパーソンへ」

エンジニアという職業をよりクリエイティブな存在に再定義することで、
エンジニアが開発をすることにとどまらず、テクノロジーに対する深い
理解を基に新しい事業を生み出していく姿を目指しております。
エンジニアが最新のテクノロジーを使い、様々な社会課題を解決し、
日本社会をより良い未来に導くのが、当社の存在意義となります。

Copyright © Headwaters Co., Ltd.

沿革

2005 設立

2007 「(株)ヘッドウォーターズ」に商号変更

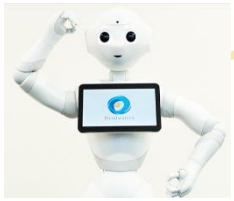
2014 ロボットアプリ制作サービス開始

2015 「Pepperサービス」「Pocket Work Mateサービス」開始

2016 クラウドロボティクスサービスリリース

2018 マルチAIプラットフォーム「SyncLect」リリース

2020



Pocket WorkMate

SyncLect

AI

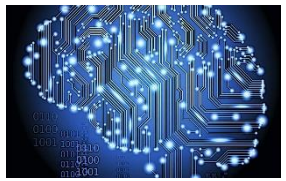
創業期	AIソリューション事業の展開	成長・拡大期

Copyright © Headwaters Co., Ltd.

ヘッドウォータースの技術・開発力の「源」

AI/ロボティクス市場の黎明期から事業を推進し、当社の得意分野・優位性を確立

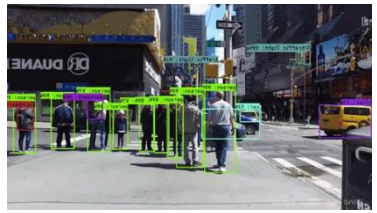
■ ロボット関連事業で培われた多様な技術



頭：AI



耳・口：スマートスピーカー





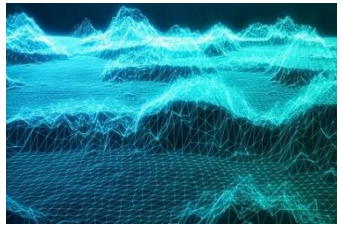
目：カメラからの画像解析・顔認証



胸：スマートデバイス



身振り：UX（ユーザー体験）



足：自律移動



センサー：IoT

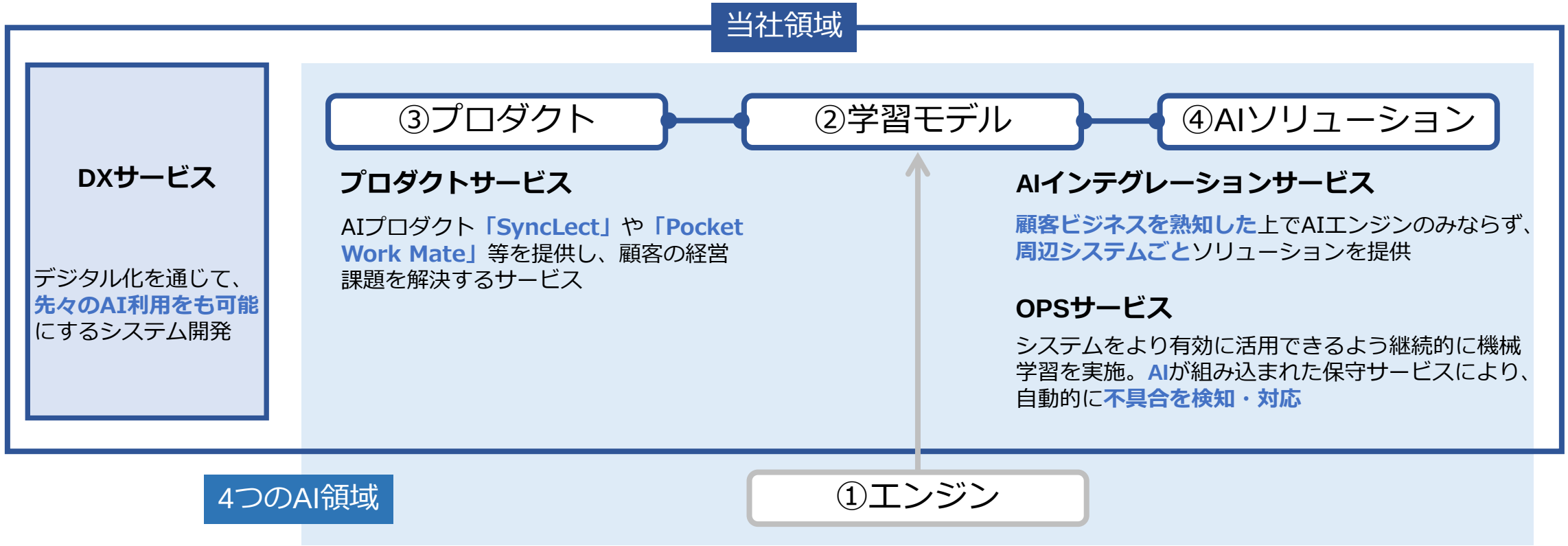


遠隔操作：クラウド

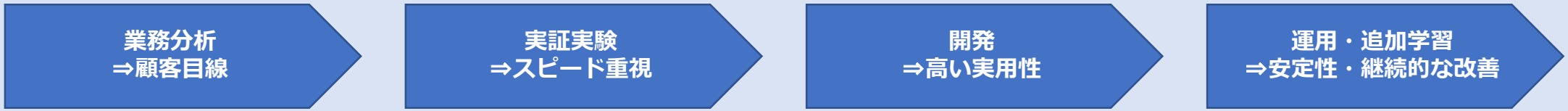
Copyright © Headwaters Co., Ltd.

AIソリューション事業

顧客のビジネスを熟知した実用性の高いサービスを、スピーディーに提供・高い費用対効果を実現



AI導入プロセスをトータルに対応

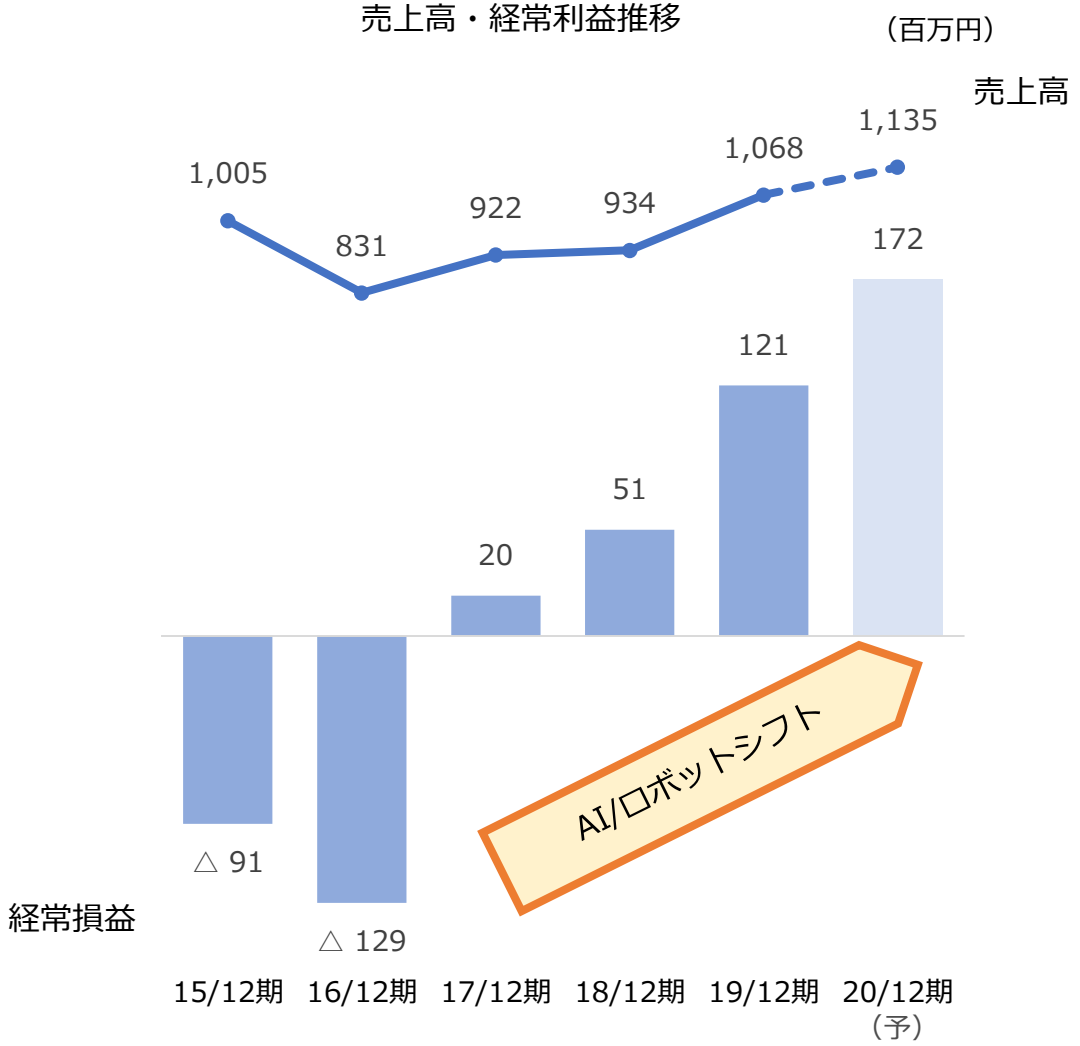


Copyright © Headwaters Co., Ltd.

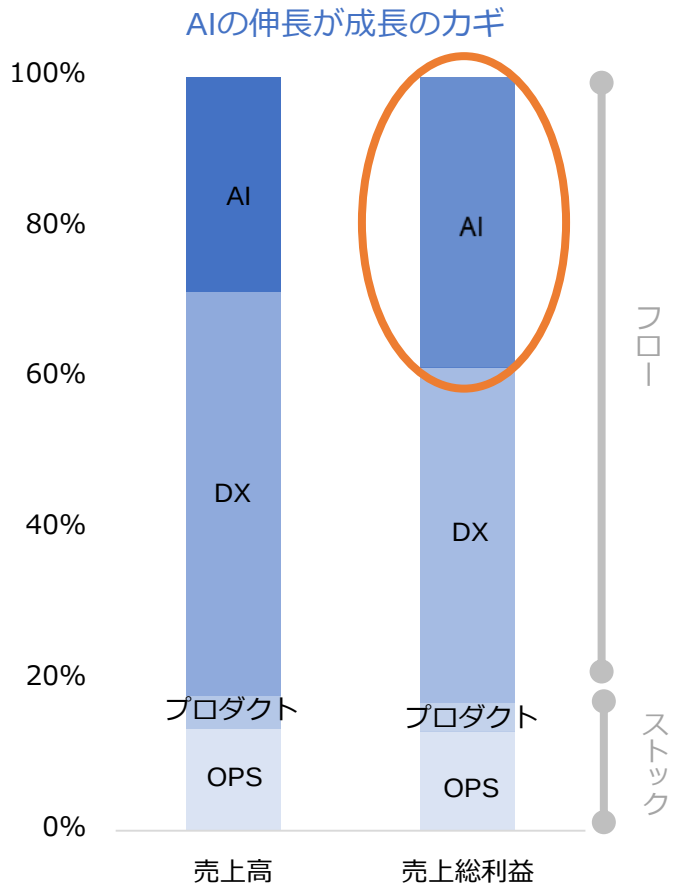
業績動向

AI/ロボットシフト契機に経常利益改善・収益黒字化

売上高・経常利益推移



売上高・売上総利益のセグメント別構成



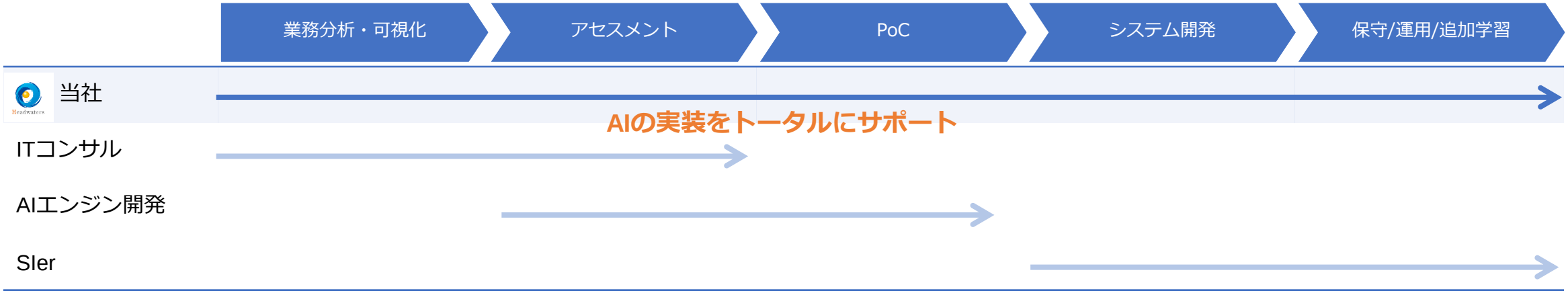
2019年12月期実績

Copyright © Headwaters Co., Ltd.

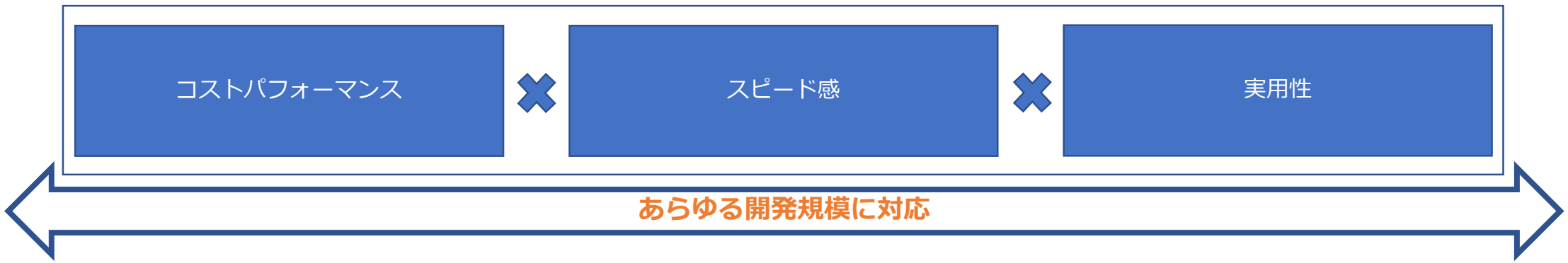
一気通貫モデル

一気通貫モデル＝「コストパフォーマンス×スピード感×実用性」

■ 一気通貫モデル



■ 他社の追随を許さない付加価値の創出/高い収益性

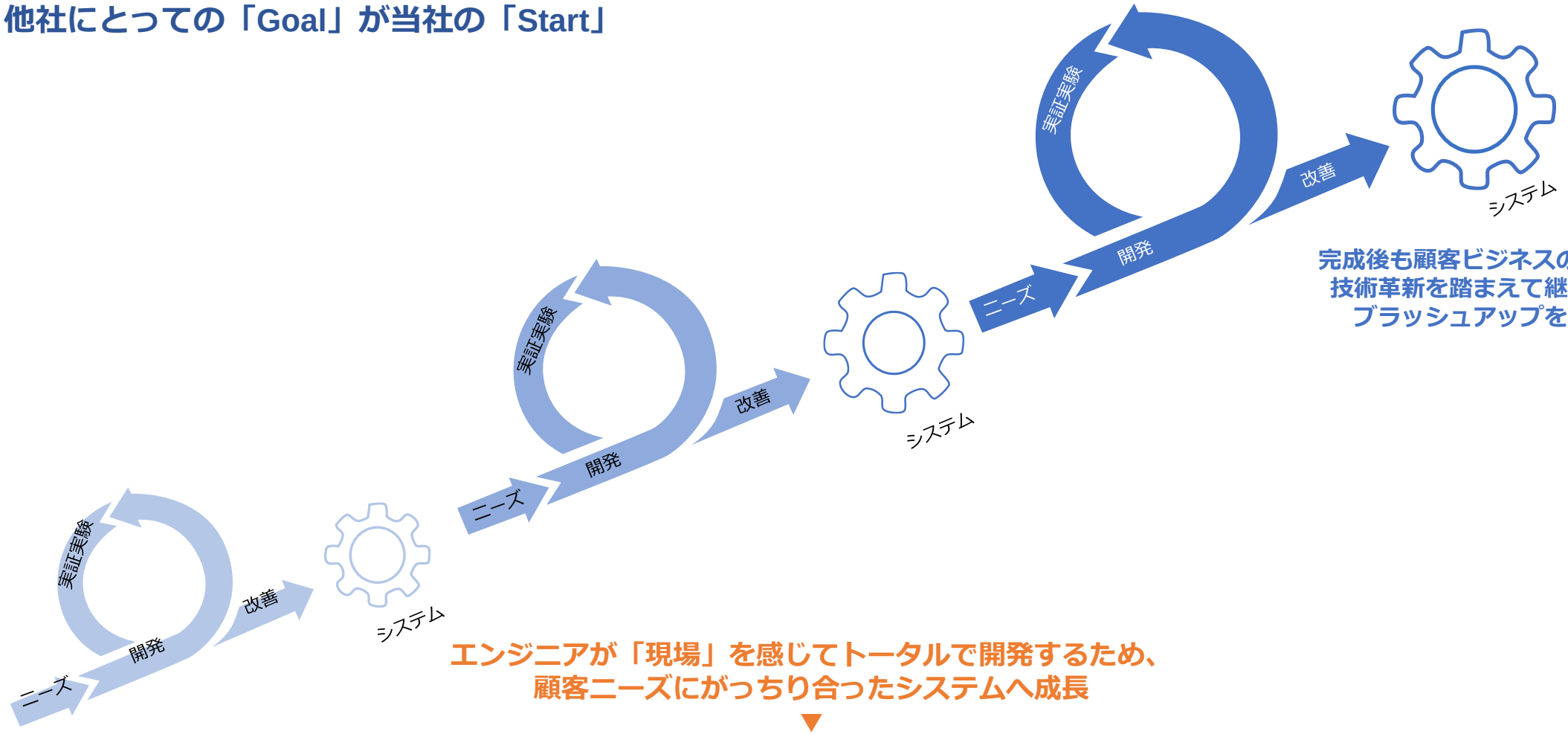


Copyright © Headwaters Co., Ltd.

実用性を重視した開発手法

顧客と一緒にシステムを育て上げるスタイル

■ **他社にとっての「Goal」が当社の「Start」**



完成後も顧客ビジネスの変化や技術革新を踏まえて継続的にブラッシュアップを図る

エンジニアが「現場」を感じてトータルで開発するため、顧客ニーズにがっちり合ったシステムへ成長

▼

顧客との関係強化に伴うPJの大型化・横展開→継続率アップ及び粗利率向上

Copyright © Headwaters Co., Ltd.

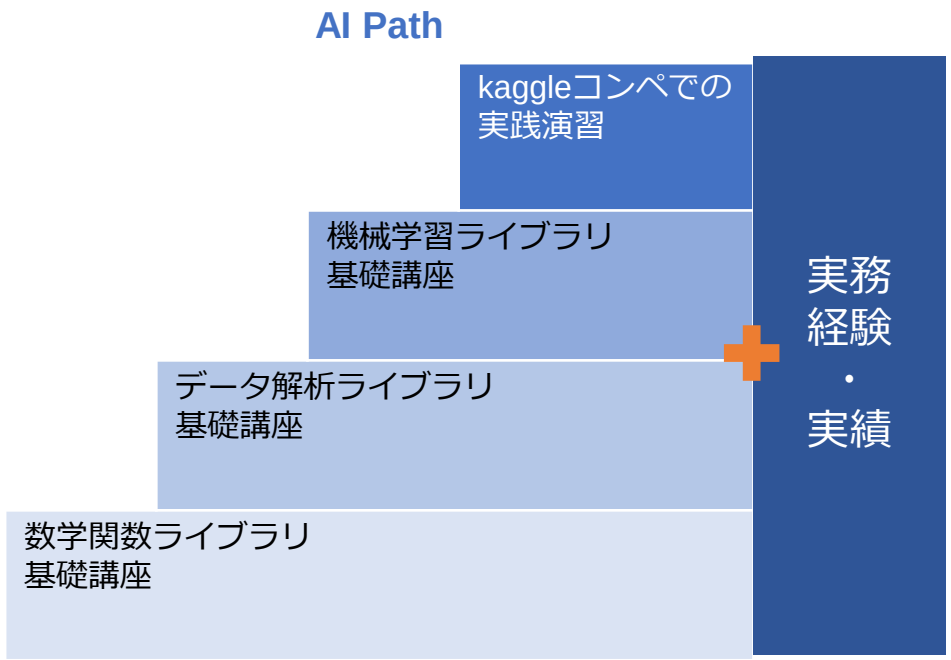
人材育成・研究開発体制

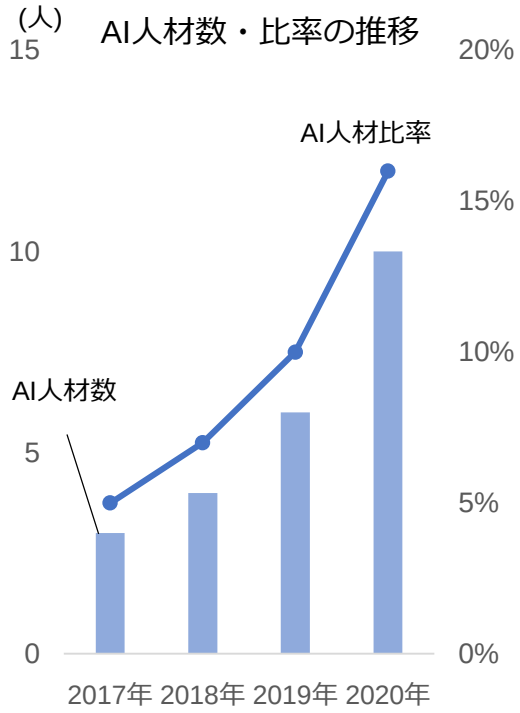
創業以来、顧客のビジネスを深く理解した上でソリューションを提供できる人材を育成・研究開発推進

■ 人材育成

- 実績、経験に裏付けされた育成力
  AIを黎明期から手掛けてきたことにより、社内でAIエンジニアを一から育成する体制・ノウハウがある
- 業務システム開発からスタートすることで、顧客に寄り添えるAIエンジニアを育成できる＝当社の強みの源泉

AI人材＝AI Pathの学習状況＋実務経験・実績を加味
→当社の「AIソリューション」を提供可能と認定した人材





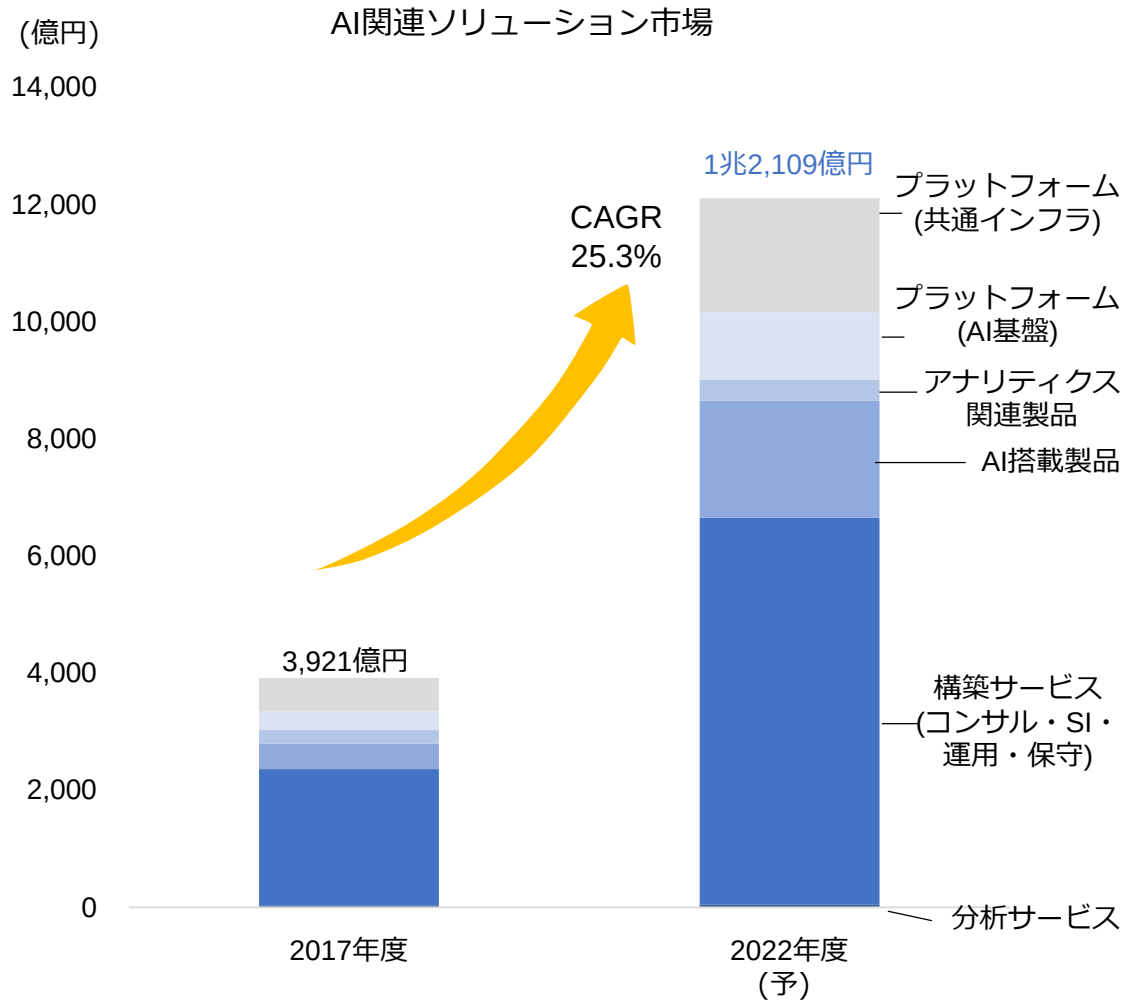
■ 研究開発体制

- 専門R&Dチーム
  最先端技術のサービス窓口になることを目指して研究開発を担う専任担当者を配置
  研究内容によって、他のメンバーもアサインし、効率的に最先端のAI技術を研究
- 幅広い分野への対応力
  画像認識、自然言語認識、機械学習によるデータ分析

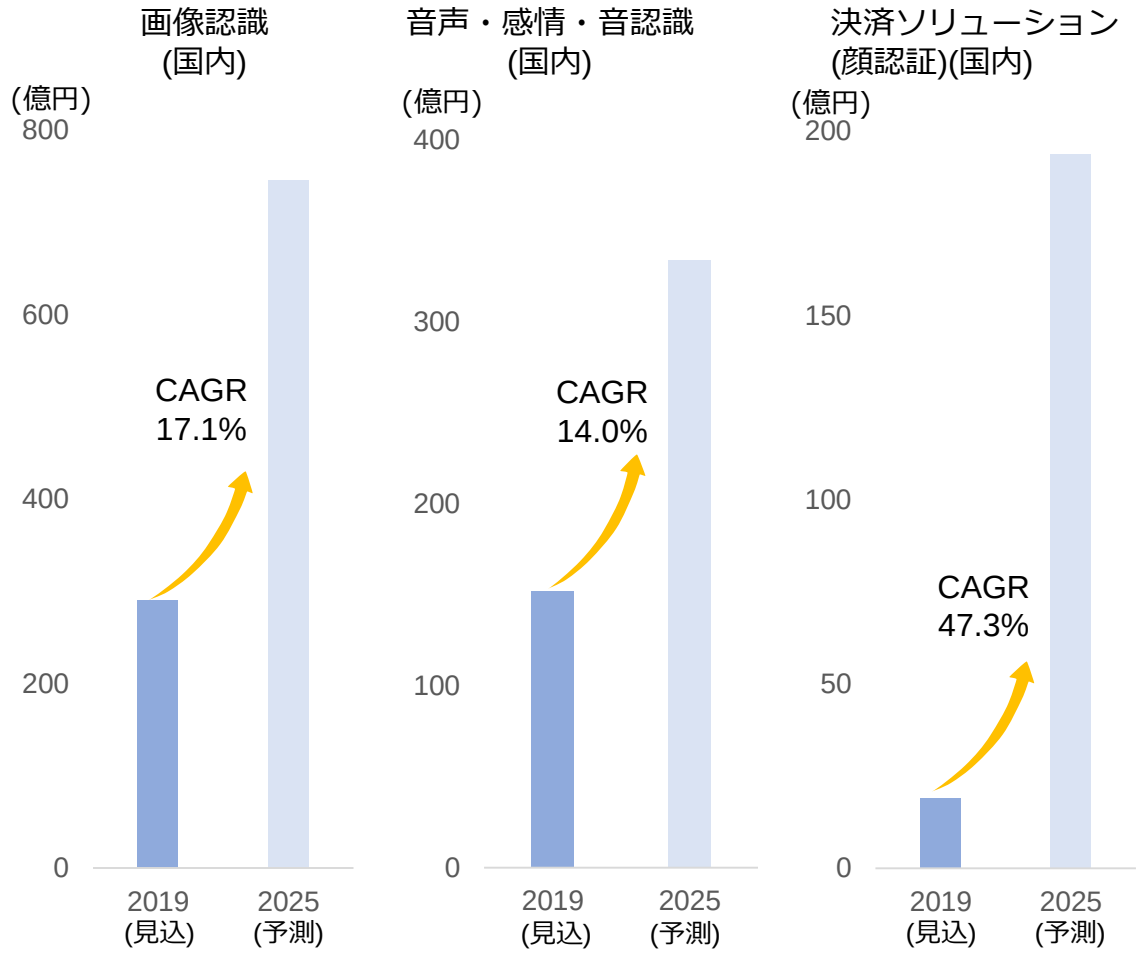
Copyright © Headwaters Co., Ltd.

市場環境認識

少子高齢化の進行にともない「生産人口」の明らかな減少→DX化・AI活用は急務



出所：（株）富士キメラ総研「2019　人口知能ビジネス調査」をもとに当社作成



出所：（株）富士キメラ総研「2020　画像・音声AI／次世代インターフェース市場の現状と将来展望」をもとに当社作成

Copyright © Headwaters Co., Ltd.

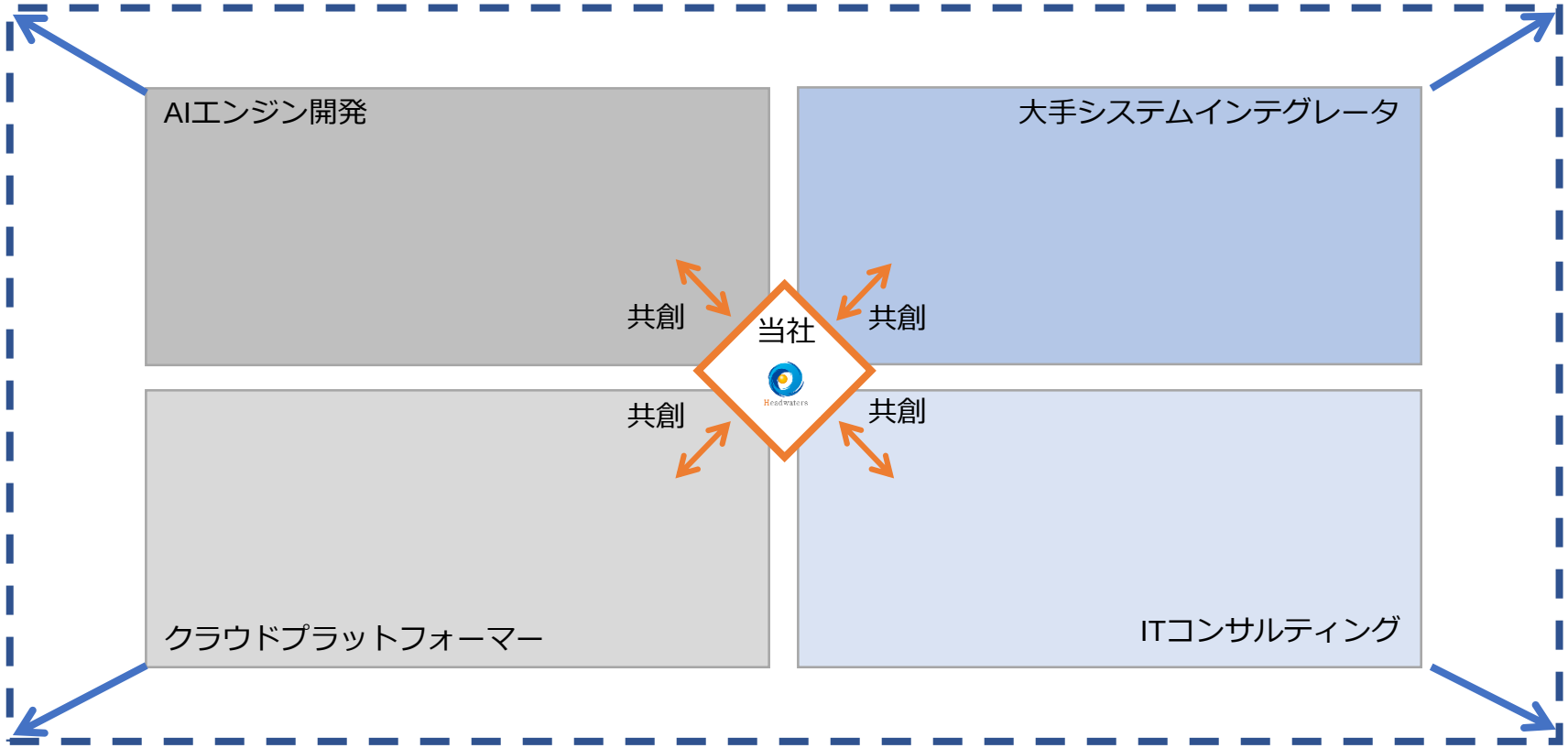
競争→「共創」

加速度的に拡大するAIマーケットにておいて競争ではなく「共創」することでさらなる発展へ

■ 多くの選択肢を持つために

- 仕組みの変化
  当社は不確実性の高いVUCA※時代に即し「マイクロサービス型のシステム」を採用＝組立型の開発
  →他社も巻き込んでシステムを構築、つまり内部資産も外部資産も同様に利用する
  　そしてないものは「独自に開発」することで、最短で実用性のあるシステムの構築を可能にする

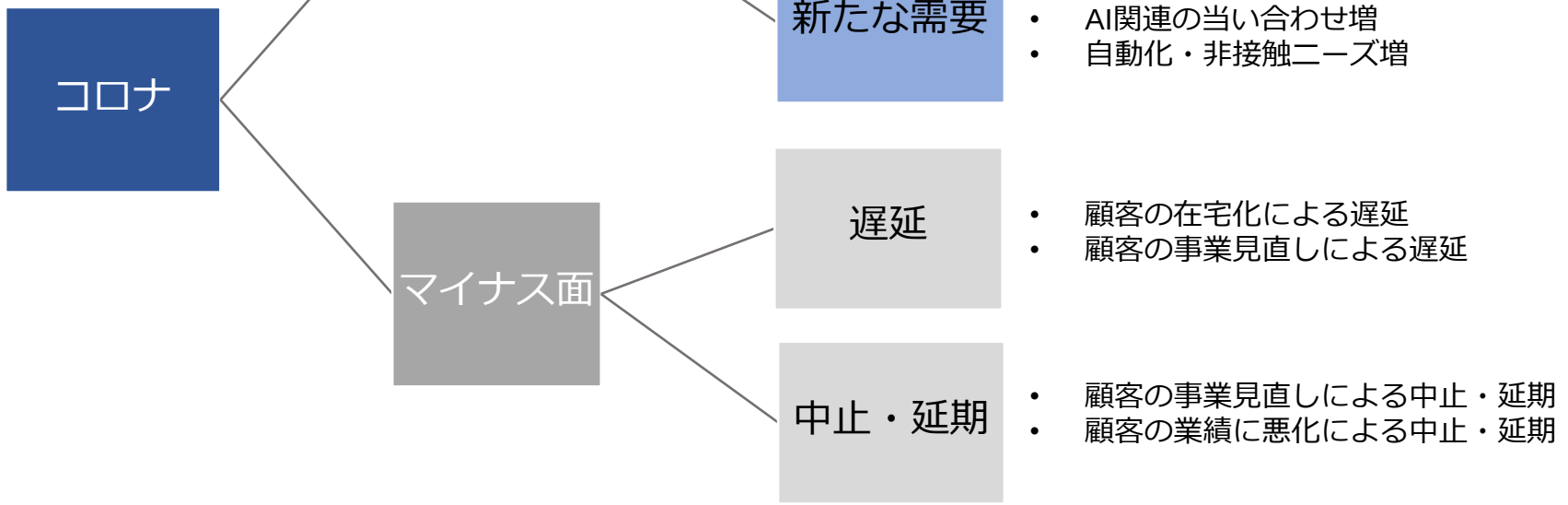
※VUCA
「Volatility」（変動性）
「Uncertainty」（不確実性）
「Complexity」（複雑性）
「Ambiguity」（曖昧性）
の頭文字を取った言葉で、あらゆるものを取り巻く環境が複雑性を増し、想定外の事象が次々と発生するため、将来の予測が困難な状態。

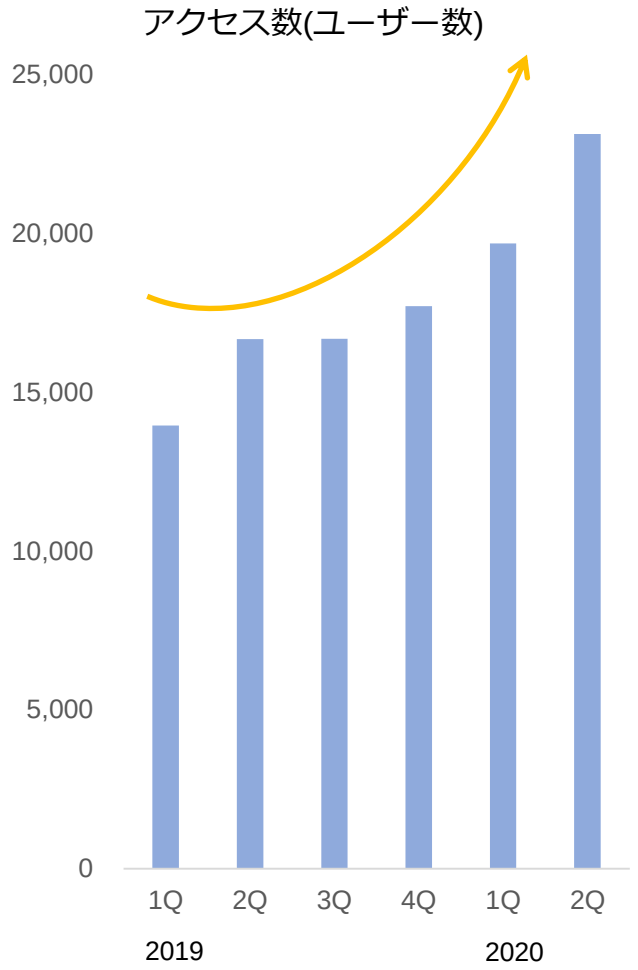


Copyright © Headwaters Co., Ltd.

新型コロナウイルス感染症の影響

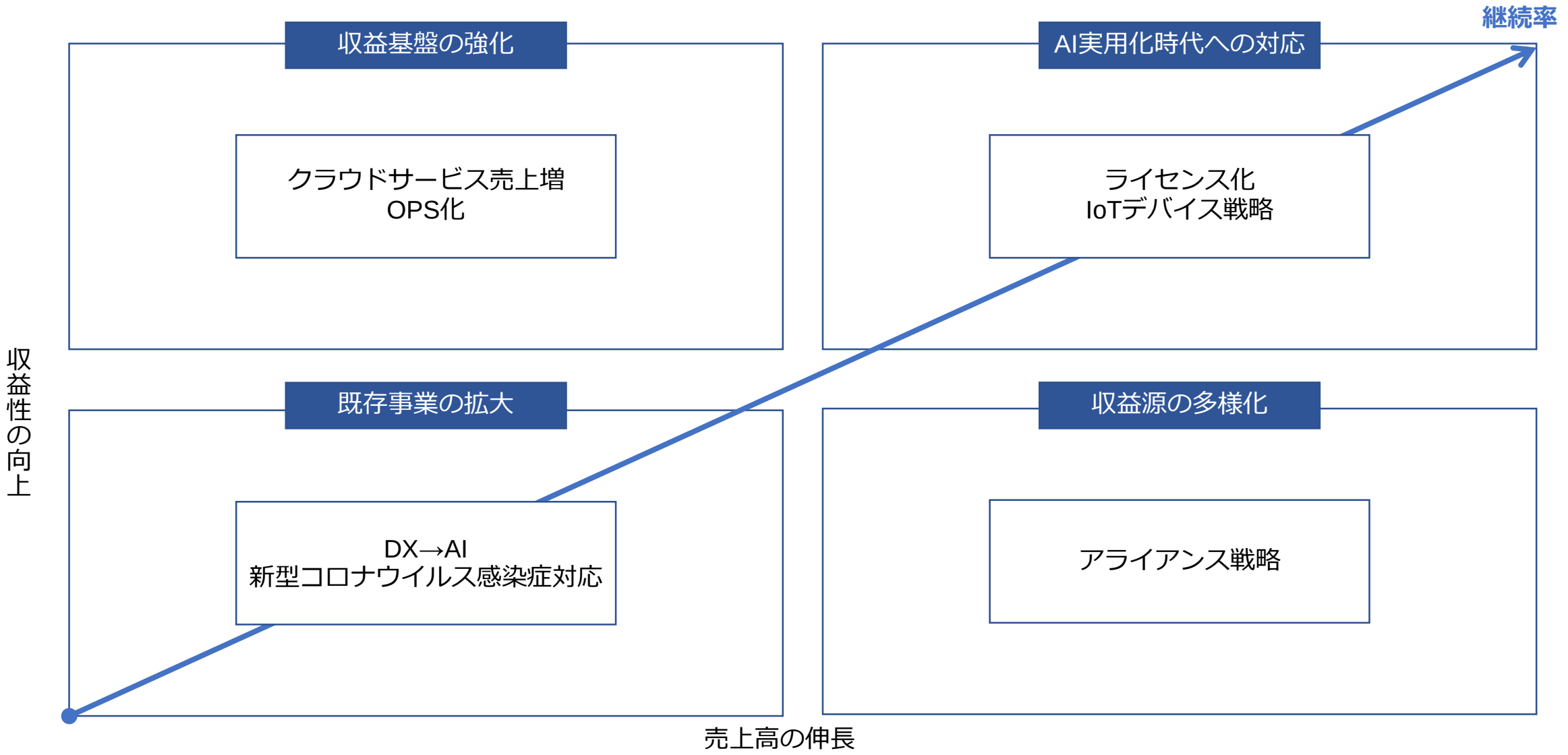
「新しい生活様式」に対応したソリューション(非接触・リモート・ロボティクスなど)で長期的にはプラス





Copyright © Headwaters Co., Ltd.

今後の成長戦略



Copyright © Headwaters Co., Ltd.

重点施策

短期

既存事業の拡大

AI化の加速

DX→AI

DXを切り口に顧客ニーズを深堀することで、**収益性の高いAI化**にシフト

新型コロナウイルス感染症対応

新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に**自動化・非接触化ニーズ**が高まり、これまで以上に**DXやAI化ニーズ**が高まってきており、確実にこのニーズに応えることで、既存事業の拡大を図る
(**三密対策/混雑認識**/非接触認証＋決済/遠隔研修・医療・接客/リモートワーク等)

短期

収益基盤の強化

ストック比率向上

クラウドサービス売上増

自社開発の**「Pocket Work Mate」・「SyncLect」**等のプロダクトを外部のリソースも活用しながら、効率的に営業することで、ユーザー数の増加を図る

OPS化

「維持」だけにはとどまらず、システムをより有効に活用できるように顧客ビジネス・技術の変化をとらえて継続的に一歩踏み込んだ運用を展開。継続的な対応の重要性への理解を促進することで、既存顧客のOPSサービス利用に繋げ、**継続率向上へ**
さらに社内での徹底した効率化を図ることで、**収益性の向上**もを図る

中期

収益源の多様化

外部リソースの活用

アライアンス戦略

対象とする市場ですでに存在感のあるパートナーと組むことで、当社はシステム開発に注力し、**効率的に市場シェアの拡大**を図る

長期

AI実用化時代への対応

新たな収益源の確保

ライセンス化

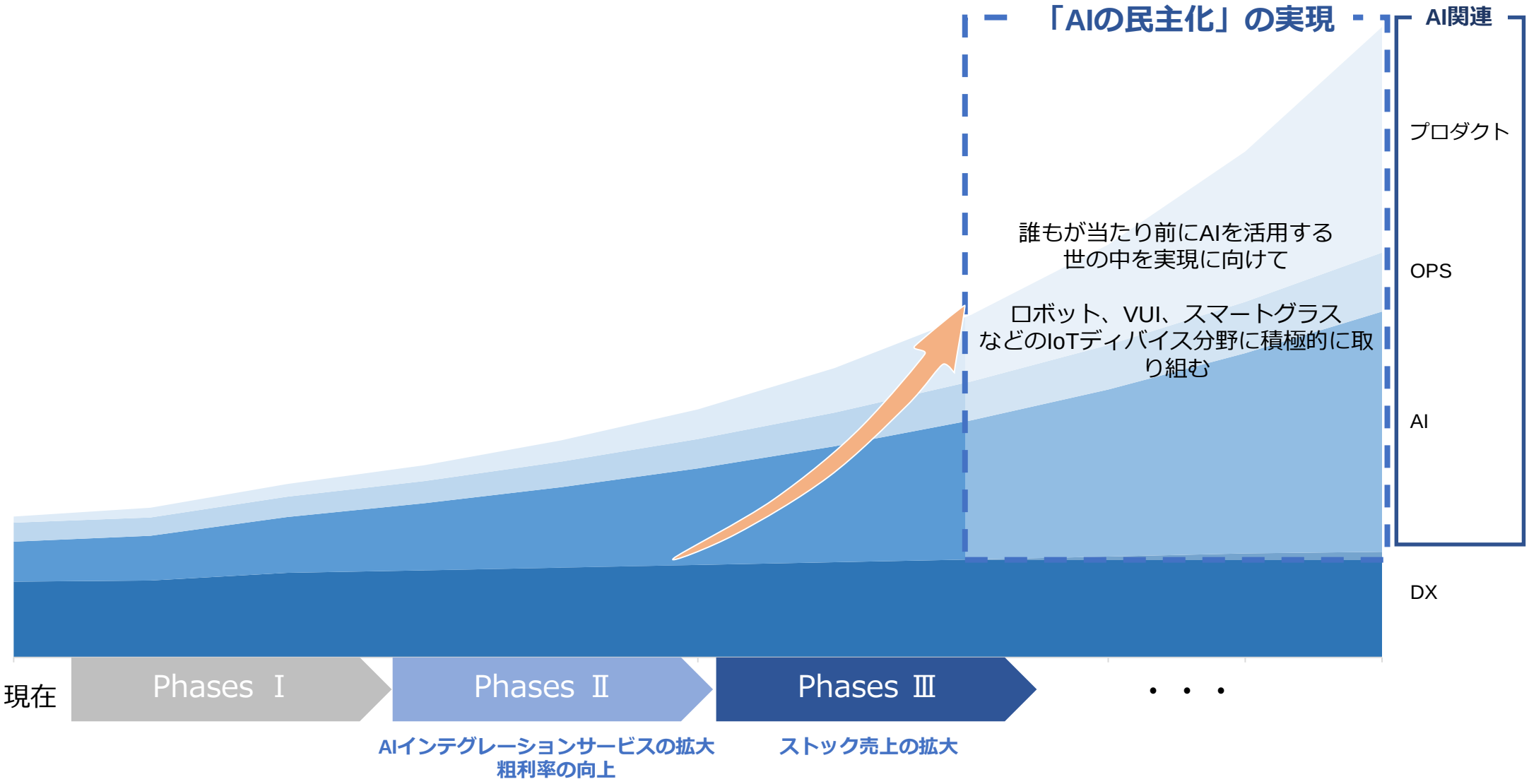
アライアンス戦略でシェアを確保し、ライセンス化することで、**新たなストック収益を確保**

IoTデバイス戦略

ロボット、VUI、スマートグラスなど今後成長が見込まれるデバイスを新たな分野として着実に取り込んでいく

Copyright © Headwaters Co., Ltd.

売上高拡大イメージ



Copyright © Headwaters Co., Ltd.

2020年12月期　通期見通し

(百万円)

	19/12期(実績)		20/12期(予想)			20/12期2Q(実績)		
		構成比(%)		構成比(%)	前期比(%)		構成比(%)	進捗率(%)
売上高	1,067	100.0	1,134	100.0	6.3	588	100.0	51.9
AI	303	28.4	354	31.2	16.6	175	29.8	49.5
DX	573	53.7	605	53.4	5.7	320	54.4	52.9
プロダクト	46	4.4	64	5.7	38.0	33	5.7	51.6
OPS	144	13.5	110	9.7	△23.4	59	10.1	53.6
営業利益	120	11.3	184	16.2	52.9	134	22.8	72.8
経常利益	121	11.4	174	15.2	42.0	131	22.4	75.3
当期(四半期)純利益	100	9.4	138	12.3	38.8	110	18.8	79.7
1株当たり当期(四半期)純利益	121円72銭		163円79銭			134円74銭		

Copyright © Headwaters Co., Ltd.

【ご参考】決算概要

損益計算書 (百万円)

	18/12期	19/12期
売上高	933	1,067
営業利益	45	120
経常利益	51	121
当期純利益	43	100

貸借対象表 (百万円)

	18/12期末	19/12期末		18/12期末	19/12期末
現金預金	211	402	買掛金	83	51
売掛金	244	123	未払費用	32	33
その他	13	17	その他	54	77
流動資産	469	543	流動負債	170	161
有形固定資産	4	11	固定負債	26	16
投資その他の資産	5	5	負債合計	196	177
固定資産	9	16	資本金	243	243
			資本剰余金	233	233
			利益剰余金	△195	△95
			株主資本	282	382
			純資産合計	282	382
資産合計	479	560	負債純資産合計	479	560

Copyright © Headwaters Co., Ltd.

本資料の取り扱いについて

本資料および決算説明会で提供する情報のうち業績見通しおよび事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と合理的であると判断する一定の前提に基づいています。
リスクや不確実性を含んでおります。

従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果になりうることをご承知おきください。

当社がこの資料を発行後、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新、または修正して公表する義務を負うものでありません。

本資料の著作権は当社に帰属し、目的を問わず、当社に事前の承諾なく複製または転用することなどを禁じます。

【IRに関するお問合せ先】
ir@headwaters.co.jp

※メールによるお問い合わせに限定させていただいております。
お問い合わせの内容によりましては、返信にお時間をいただく場合がございます。

Copyright © Headwaters Co., Ltd.